

# 「日本人の国民性 第 13 次全国調査」の結果のポイント

## 1 日本人の長所として「礼儀正しい」「親切」が過去最高

日本人の長所として挙げられるものを具体的な 10 個の性質の中からいくつでも選んでもらったところ，“勤勉”，“礼儀正しい”，“親切”を挙げる人が 7 割を超えた (#9.1)。特に，“礼儀正しい”はこれまで 5 割前後だったが今回 2013 年は 77% にまで上昇し，“親切”は 3 割から 5 割の間だったが 71% に高まるなど，いずれも 20 ポイント近く増加して過去最高となった。なお“勤勉”は，これまでの 7 割前後から今回は 77% に増えて，これも過去最高である。

また日本の「心の豊かさ」に対する 4 段階の評価結果では，“非常によい”あるいは“ややよい”とする人の割合は，1993 年から 1998 年にかけて 41% から 26% へと落ち込み，そのまま 30% を割り込んで低迷していた (#9.12e)。しかし 2013 年の今回は 47% にまで急速に回復し，1973 年の当該項目の調査開始以降では最も高い割合となった。

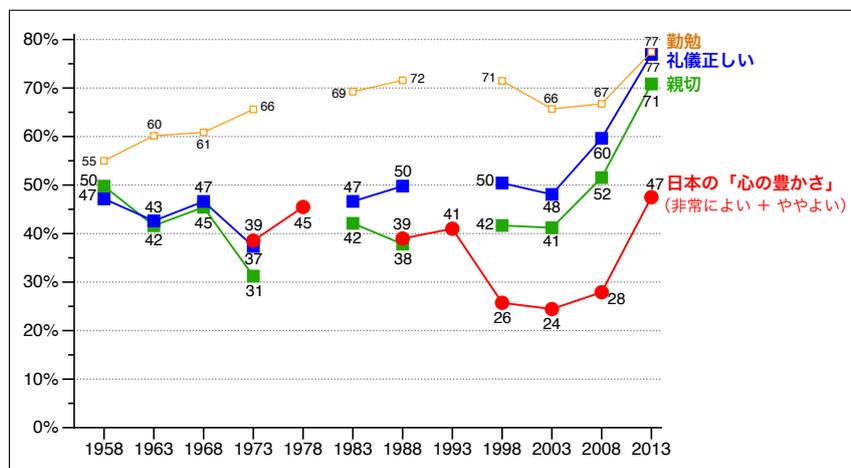


図 1: 日本人の性格 (長所) と日本の「心の豊かさ」に対する評価

これらに関連した項目として，たいていの人は“他人の役に立とうとしているか”あるいは“自分のことだけに気をくばっているか”を尋ねたところ，“他人の役に”という人は 1978 年は 19% に過ぎなかったが，その割合は毎回少しずつ増加し，今回 2013 年は前回 2008 年の 36% から 10 ポイント近く伸びた 45% となって，はじめて“自分のことだけ”の割合 (42%) を上回った (#2.12)。

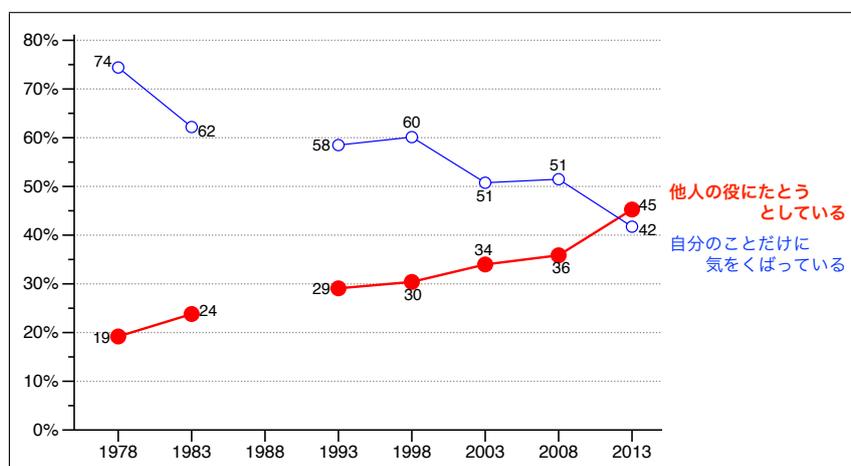


図 2: たいていの人は，他人の役にたとうとしているか，それとも，自分のことだけに気をくばっているか？

## 2 もう一度生まれかわるとしたら「日本」に

もう一度生まれかわるとしたら“日本に生まれたい”か、それとも“よその国に生まれたい”かを選んでもらったところ，“日本に”を選ぶ人は、全体では前回2008年の77%から今回2013年は83%へと上昇した(#9.22c)。性・年齢層別に見ると、高齢層は2008年においても8割を超えていたが、2013年は若年層を含む全ての年齢層で7割を超えた。

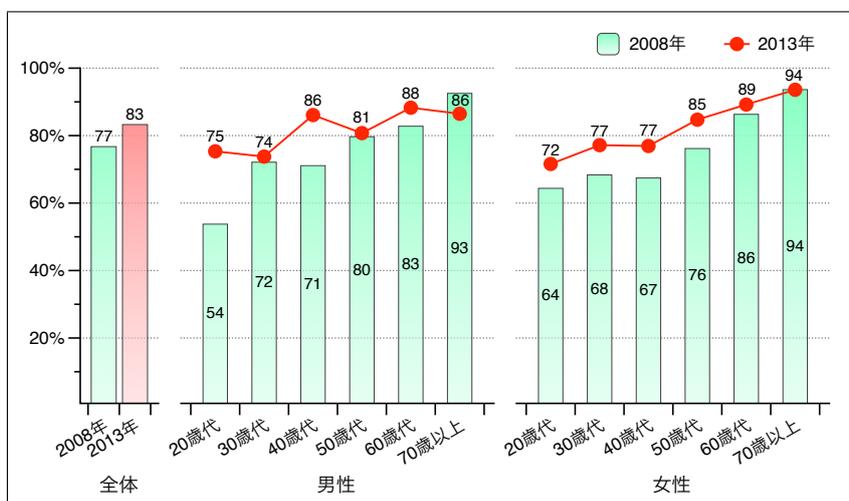


図 3: もう一度生まれかわるとしたら「日本」に生まれたい

“日本”人気の要因の一つには、前項で紹介した日本人自身に対する評価の高まりがあると考えられる。実際、日本の「心の豊かさ」をよいと考えている人ほど、もう一度生まれかわるとしたら“日本に生まれたい”としている。この傾向は、詳細なグラフ等は割愛するが、どの性・年齢層でも同様に認められる。

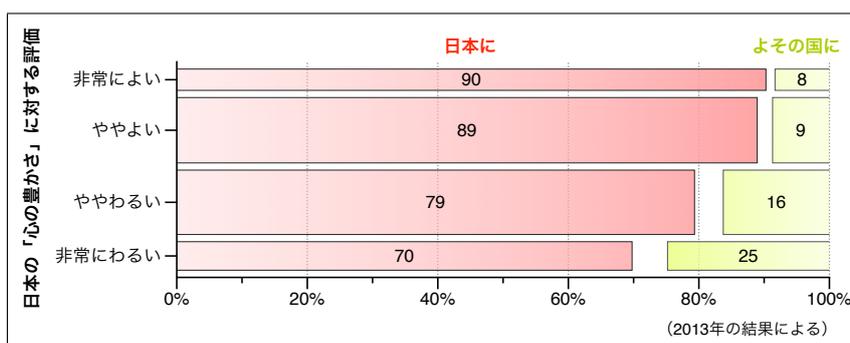


図 4: 日本の「心の豊かさ」に対する評価 × 生まれかわりたい国

### 3 生活水準 ～ 日本を再評価も、自身は「変らない」が最多

心の面に関する評価の高まりと歩調を合わせるように、日本の経済面についての評価も上向く動きがみられる。日本の「生活水準」や「経済力」を4段階で尋ねたところ，“ややよい”とする人の割合は、「生活水準」に関しては前回2008年の44%から今回2013年は54%へ、「経済力」については2008年の32%から44%へと、いずれも10ポイント程度増加した（#9.12c, #9.12d）。ただし，“非常によい”とする人の割合は1993年から1998年にかけて急落して以来、今回も5%程度で推移している。

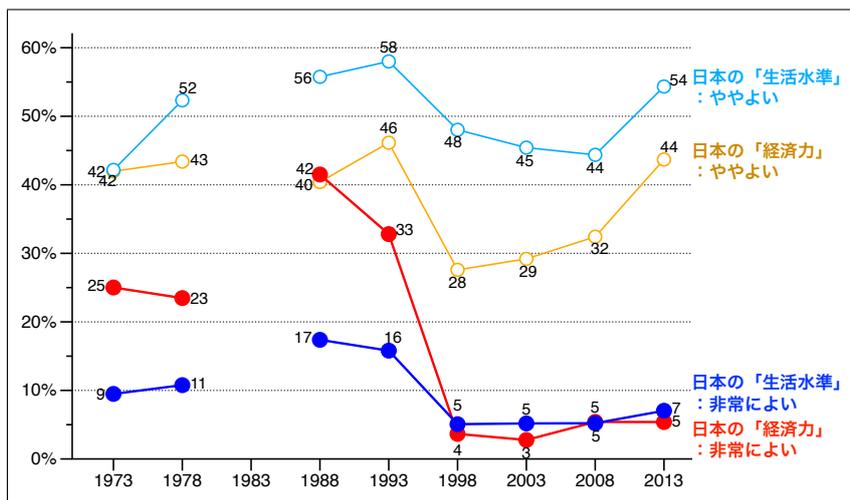


図 5: 日本の「生活水準」と「経済力」に対する評価

日本の経済面が再評価されつつある一方で、実際に自分自身の生活水準がこの10年間で“よくなった”あるいは“ややよくなった”という人は、1993年の41%から2003年に20%へと下落し、今回も20%にとどまったままである（#7.30a）。他方，“わるくなった”あるいは“ややわるくなった”という人の割合は、1993年の13%から2003年には39%まで上昇した。その後、生活水準が悪化したという人の割合は減り続けているものの、10年間“変らない”という人は増え、今回2013年は53%に達した。

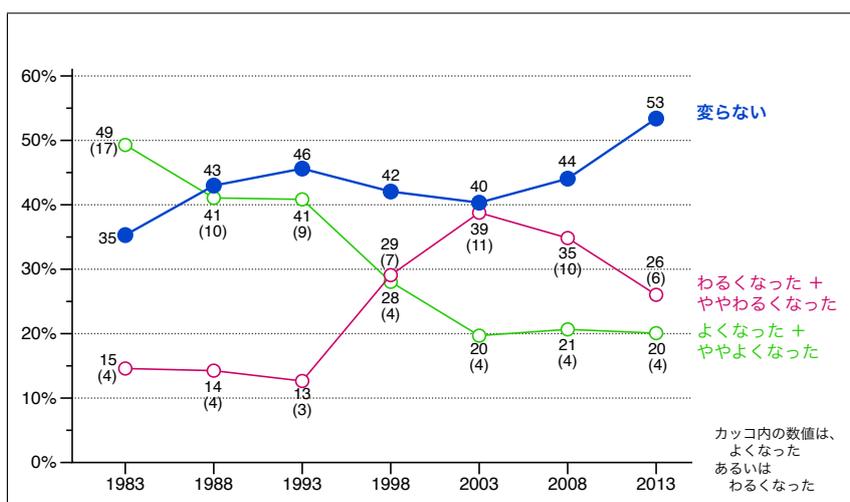


図 6: あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか？

## 4 「努力しても報われない」が増加

自分の目標に向かって努力することについて“まじめに努力していれば、いつかは必ず報われると思う”か、それとも“いくら努力しても、全く報われないことが多いと思う”かを尋ねたところ、“努力しても報われない”という人は、全体では1988年の17%から2013年には26%へと10ポイント近く増加している（#7.38）。増加はどの性・年齢層でも見られ、特に20歳代・30歳代の男性では、1988年には4人に1人だった割合が、2013年になると3人に1人を超えている。

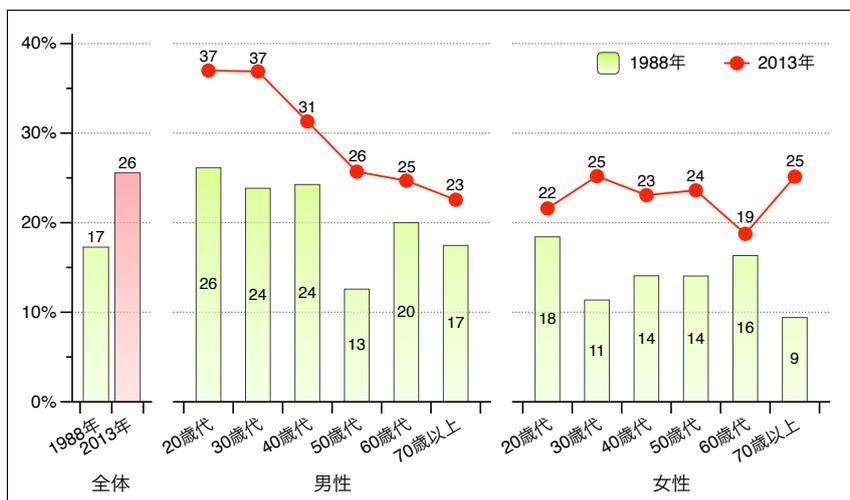


図 7: いくら努力しても、全く報われないことが多いと思う

努力が報われないという回答が増加した背景には様々な要因が考えられ、経済的な面もその一つである。「生活水準10年の変化」と「努力すれば報われるか」とのクロス集計を見ると、生活水準が10年間でわるくなったとする人ほど、“努力しても報われない”と回答する割合が高い。この傾向は、どの性・年齢層でも同様に認められる。

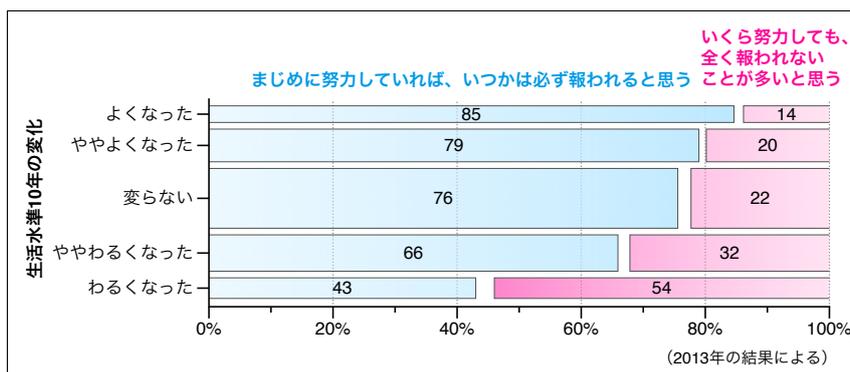


図 8: 生活水準10年の変化 × 努力は報われるか

## 5 蔓延する「いらいら」

この1ヶ月間に「いらいら」したことが“ある”という人の割合は調査を経るごとに徐々に増えており、2013年には、1993年の調査開始以来はじめて“ない”人の割合(49%)を超えて50%となった(#2.80c)。“ある”という人の増加は60歳以上を除くどの性・年齢層でも見られるが、特に若年層の女性で著しく、今回2013年は4人に3人の20歳代・30歳代女性が1ヶ月の間に「いらいら」したことが“ある”としている。

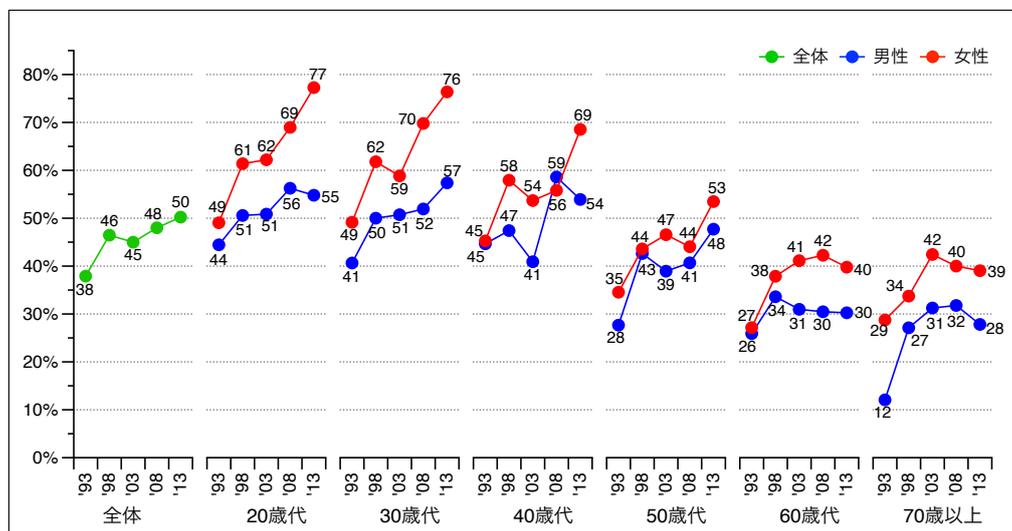


図9: この1ヶ月間に「いらいら」したことがある

また、この1ヶ月のうちに「頭痛・偏頭痛」に悩んだことがあるという人も、1993年の25%から2013年の32%へと少しずつ増えており、特に20歳代・30歳代の女性では2013年には半数を超えている(#2.80a)。

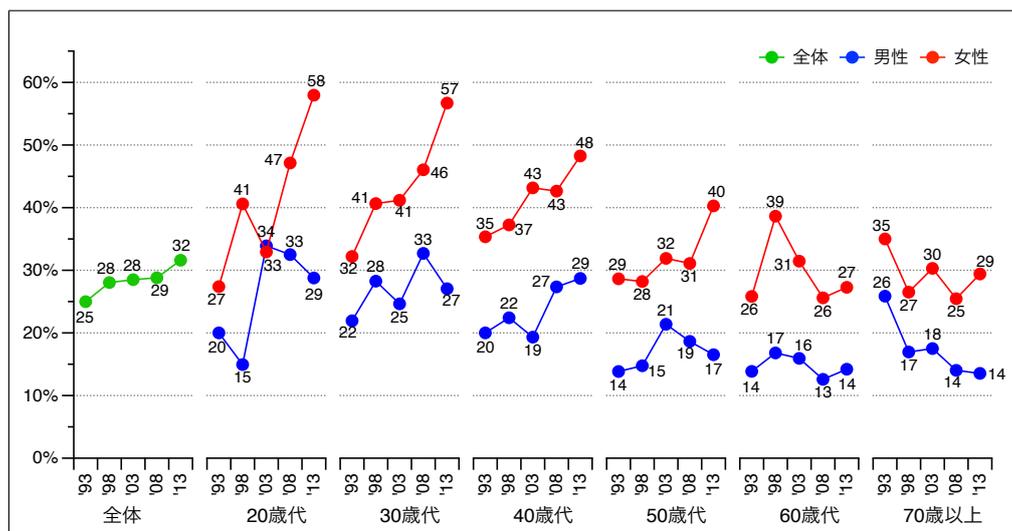


図10: この1ヶ月間に「頭痛・偏頭痛」に悩んだことがある

## 6 若年層で「わずらわしさを避けて、平穩無事に」が拡大

“自分の可能性をためすために、できるだけ多くの経験をした”か、あるいは“わずらわしいことはなるべく避けて、平穩無事に暮らしたい”か、自分の気持ちに近い方を選んでもらったところ、30年前の1983年には20歳代の80%は“多くの経験をした”と考える一方で、70歳以上の58%は“平穩無事に暮らしたい”を選んでおり、世代間で考え方に大きな違いが見られた(#2.11b)。しかし今回2013年には、“平穩無事”を望む20歳代は19%から31%へ、30歳代は25%から35%へといずれも10ポイント以上増えており、前項までに示してきたような報われなさやストレスを抱えた若年層では、多様な経験よりも安定した暮らしを願う様子が見えてくる。その一方で“多くの経験”を求める高齢層の割合は増加しており、世代間の差は30年前と比べ縮小している。

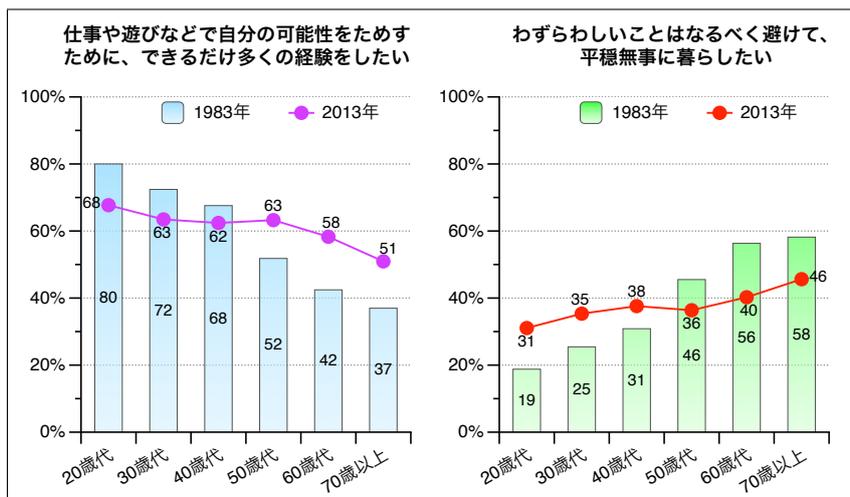


図 11: 可能性をためすか

これらに関連した項目として、“いくらお金があっても、仕事がないと、人生はつまらない”と、“お金があれば、仕事がなくとも、人生がつまらないとは思わない”のどちらが自分の気持ちに近いか尋ねたところ、“お金があれば仕事がなくともよい”という回答は全体では3割に満たないものの、その割合は1983年から増える傾向にある(#7.25)。特に若年層での増加が際立ち、20歳代では1983年の19%から倍増して2013年には40%に達している。

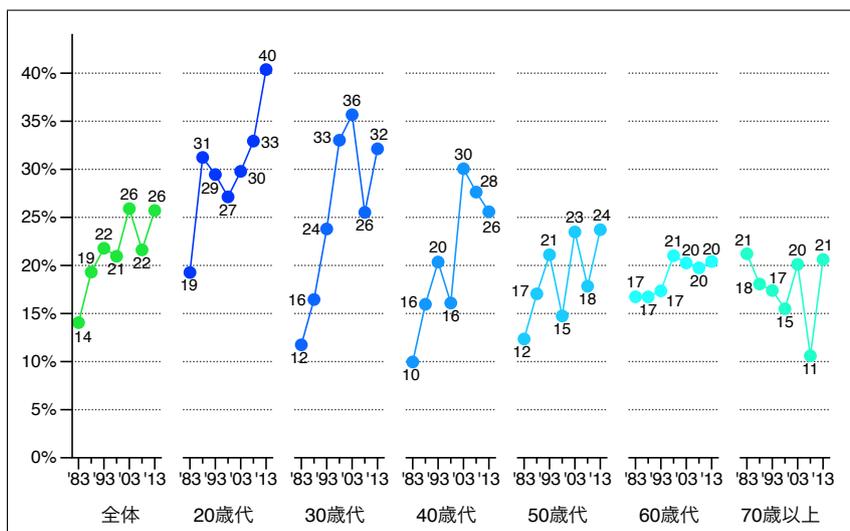


図 12: お金があれば、仕事がなくとも、人生がつまらないとは思わない

## 7 再び楽観に転じ始めた将来の見通し

将来の見通しについては、悲観的な見方よりも楽観的な見方が再び増えているようである。これから先“ひとびとは幸福になると思う”，“心のやすらかさはますます思う”，“人間の健康の面はよくなると思う”という人の割合は、いずれも1978年に最も高く2000年前後に最も低かったが、近年は再び上昇傾向にある（#7.18e, #7.18b, #7.18）。特に20歳代に限ると、楽観的見通しの割合は1978年よりも2013年の方が高く、例えば“ひとびとは幸福になると思う”という20歳代は2013年には42%にもものぼる。

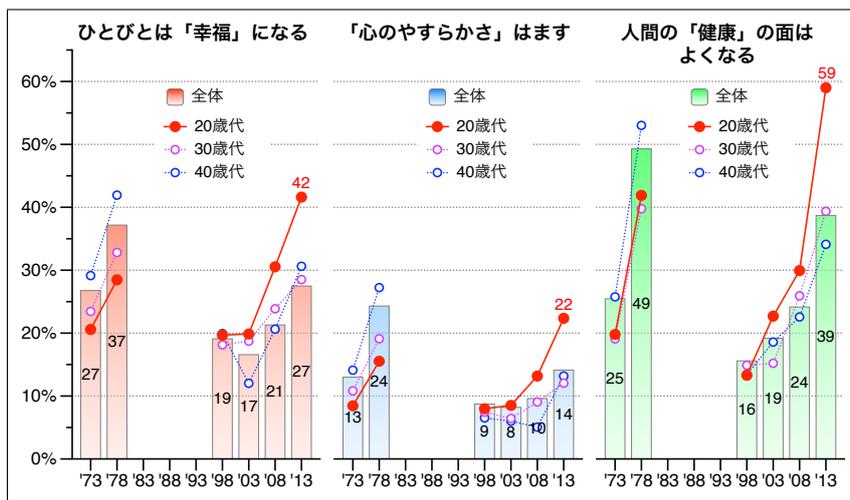


図 13: 将来の見通し

さらに将来に限らず、既に多数の人が自分は幸福だと考えているようである。ひとくちでいえば自分が“幸福（まあまあ、ふつうをふくむ）”か“不幸”かを選んでもらったところ，“幸福”という人は、高度経済成長期を迎えた1958年には81%であったが、55年後の今回2013年には94%へと増え、どの性・年齢層でもほぼ9割を超えている（#2.3）。

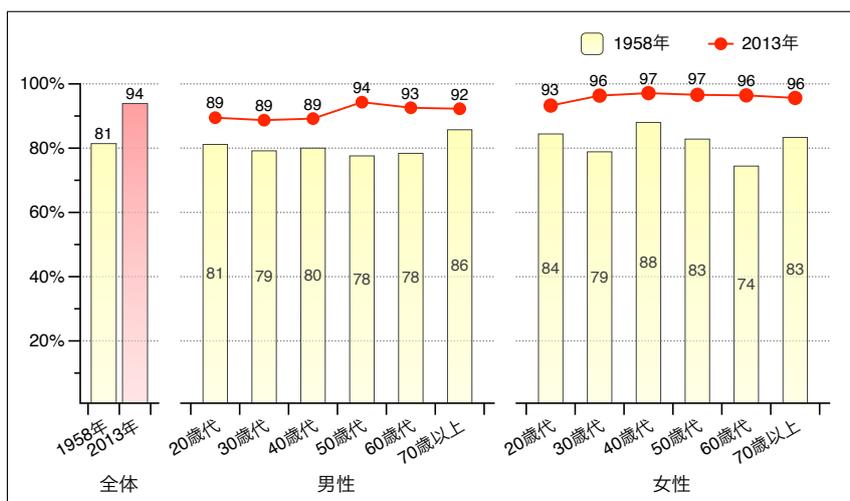


図 14: ひとくちでいうと、「幸福」だ

また、幸福度に -5 点 (とても不幸せ) から 5 点 (とても幸せ) まで 11 段階で点数をつけてもらうと、マイナスの点数をつける人は、20 歳代男性を除くとどの性・年齢層でも 1 割に満たない (#2.3\*)。逆に 1 点以上の点数をつける人は、いずれの性・年齢層であっても半数を超え、若年層ほど多くなる傾向にある。

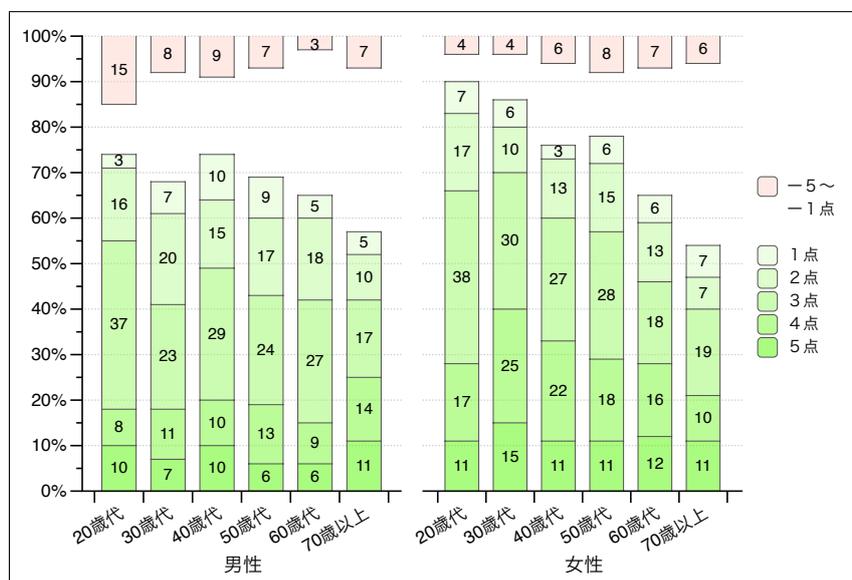


図 15: 現在、あなた自身はどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 5 点、「とても不幸」を -5 点、「ふつう」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。

## 8 その他の特徴的な結果

### 8.1 3人に2人が原子力施設の事故に対して不安感

原子力施設の事故に対する不安感を4段階で尋ねたところ、不安を“非常に感じる”または“かなり感じる”という人の割合は、2008年までは4割から5割程度であったが、2011年の東日本大震災後の今回2013年は3人に2人に増加している (#2.30g)。

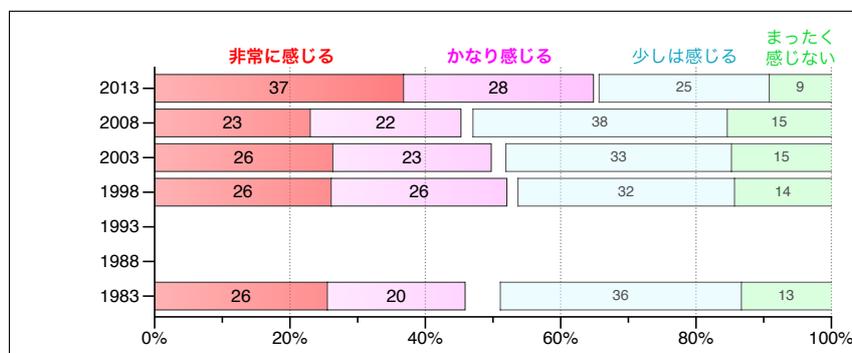


図 16: 「原子力施設の事故」についての不安

また、今回2013年に初めて地震や津波などの自然災害に対する不安感を尋ねたところ、“非常に感じる”あるいは“かなり感じる”という人は合わせて64%にのぼった (#2.30i)。特に女性はその年齢層でも3人に2人が不安を“非常に感じる”あるいは“かなり感じる”としている。

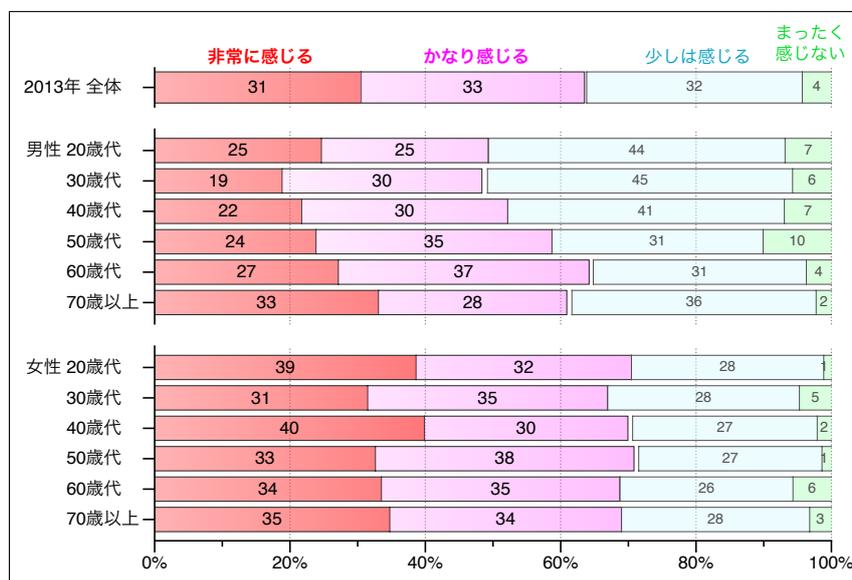


図 17: 「地震や津波などの自然災害」についての不安

## 8.2 一番大切なものは「家族」

一番大切なものを自由回答で一つ答えてもらった結果、過去数回の調査と同様に“家族”を挙げる人が最も多く、44%となった(#2.7)。次いで多いのは“愛情・精神”と“生命・健康・自分”で、いずれも18%であった。これら三つで全体の8割を占める。

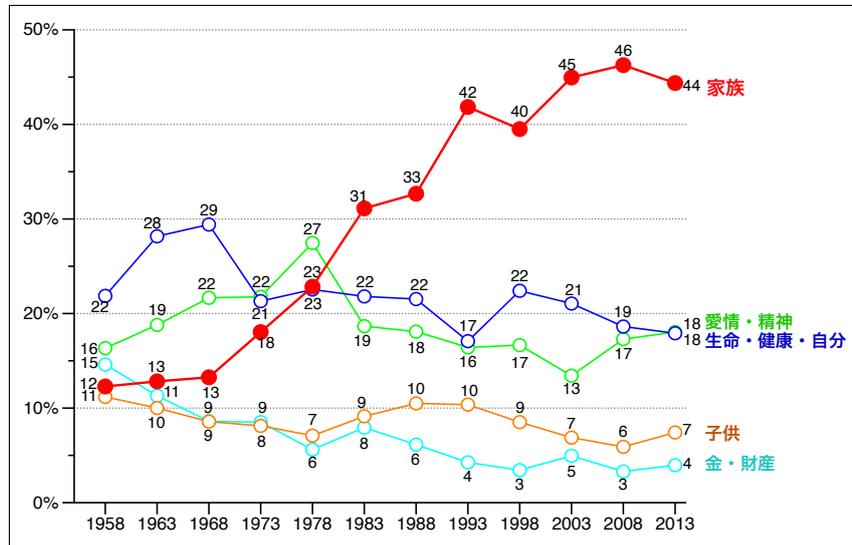


図 18: 一番大切なもの

## 8.3 職場の人間関係観は伝統回帰へ

上役と仕事以外のつき合いが“なくてもよい”か“あった方がよい”かを尋ねたところ、“あった方がよい”という割合は2000年前後から増加傾向にある(#5.6\*)。特に20歳代や30歳代では、2013年には1973年と同じ7割前後にまで戻している。

また“給料は多いが、レクリエーションのための運動会や旅行などはしない会社”と“給料はいくらか少ないが、運動会や旅行などをして、家族的な雰囲気のある会社”のどちらにつとめたいか選んでもらったところ、“家族的な雰囲気のある会社”は1978年から2003年にかけて減少していたが、近年は再び上昇に転じ始めているようである(#5.6b)。

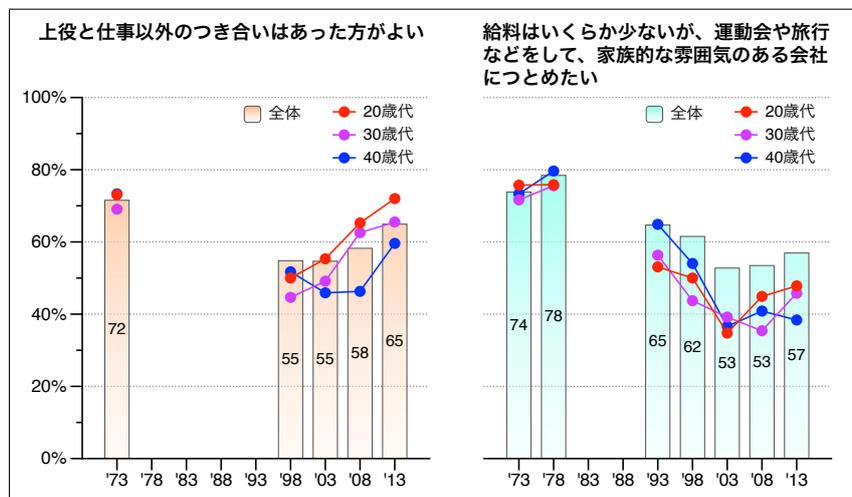


図 19: 職場の人間関係観

## 8.4 女性の「楽しみは女が多い」が増加

男女の生まれ変わりに関する質問では、今回もこれまでと同様に、男性は9割近くが“男に”生まれ変わりたいと答え、女性は7割が“女に”生まれ変わりたいと答えている (#6.2)。

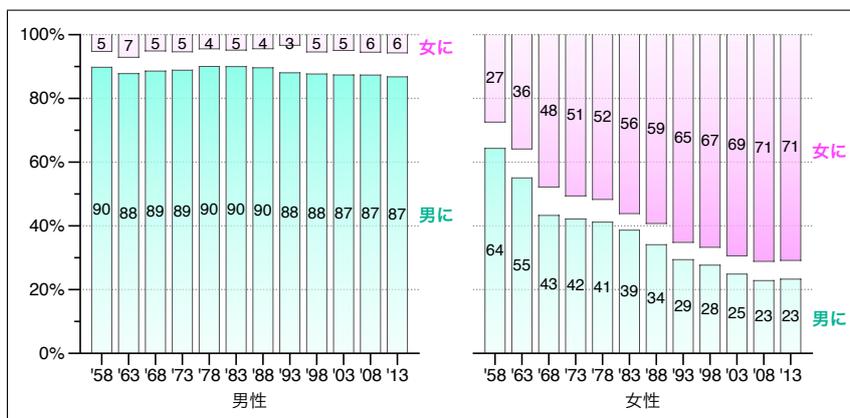


図 20: もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに、生れてきたいと思いますか？

また、「楽しみ」が多いのは男女どちらか尋ねたところ、1970年代までは男女ともに“男が多い”という回答が6割から7割を占めていたが、近年は特に女性で“女が多い”という回答が増加している (#6.2d)。

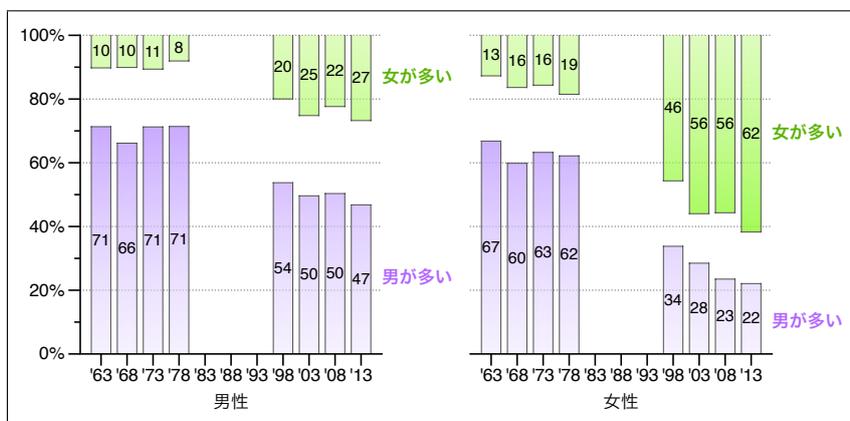


図 21: あなたは男と女の、どちらの方が楽しみが多いと思いますか？

以上